

瑞龍寺 花園会だより

第10号

(平成27年1月発行)

発行 大圓山 瑞龍寺花園会
 〒064-0802 札幌市中央区南2条西21丁目1-8
 電話(011)611-3228/FAX(011)613-8458
 編集責任者 花園会会長 茅根 米久



年頭のご挨拶

住職 皆川 彰久

乙未歳、新しい年を迎えお慶びを申し上げます。

毎年新年三が日がやってきますと、何か普段の一日と違った清々しい、新鮮な気分にあふれます。時間もゆつたりと長く感じられ、日常の生活空間が広がります。心も落ち着いた心境になってきます。除夜の鐘のように旧年の様々なことや思いの煩しさを一時払われたからでしょうか。年中行事としての正月を迎えることは、日々の習慣的雑務生活から解放させる「ころ」の転換の「力」が新年三が日という特別な日にあるかもしれません。それも又、子供の頃の長い一日の遊びに通じるのか、毎日が新鮮で時間の幅が延びきつてなかなか一日が終らない感じに似ています。

禅では、坐禅中の一息一息の瞬間に目覚めさせて呼吸させます。刹那の覚醒ですから一日一生どころでなく極端に短い時間の生死の繰り返しです。ですから一分一秒の新鮮さの現われであり「いのち」の働きづめ

です。

人生「無常迅速、時人を待たず」です。余生をもつても毎日まごまごしてくらして行けばアツという間に時間が過ぎ去っていきます。

行政・経済といった世間の流れの日々の中に「こうあるべきである」と生かされたままでは自分の本当の生き方が見つけられないのではないのでしょうか。

毎日一分一日でも目覚めて新しくゆつたりと生きて行く為にも日常生活の中におかれている今の自分の立場の変化を作って欲しいものです。例えば仲間を作り旅行や寺に来て坐禅、参拝するとか積極的に人生哲学を構築してゆく課題を切磋琢磨して余生を送るのです。

人生「終わりよければ、すべてよし」新年の計は元旦にあり今日からでも実践していただければ本当の長寿で幸せな日本になると考えます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

瑞龍寺花園会の

会長に就任して

茅根 米久



謹んで新春のお慶びを申し上げま

す。瑞龍寺の檀信徒の皆様におかれま

してはご清祥にて、宗門の興隆発展に日々ご精進の事と拝察申し上げます。

この度、当山、花園会、会長の高席を拝命致し、もともと浅学非才な私が、この様な大役が務まるかどうか不安ですが、微力ながら、責務を一生懸命努めて参りたいと思っております。

十月二十八、二十九日の二日間、旭川にて北海道教区花園大会に皆川大老師のもと、四名出席させて頂き、旭山動物園坂東先生の「いのちの輝」と題したお話に耳を傾け、動物でさえ、親子の愛情、仲間との思いやり、…まして、人間は、如何に生きるべきかを伝えられたのでしよう。

いる自分、そこにおかげさまと、自然に皆様とともに歩んできたこと、

そしてこれからも歩む事。北海道教区大会で戴いた花園法皇様の「御宸翰」の書、「報恩謝徳興隆佛法」その

のありがたい思徳に感謝し佛法を興隆したいと言う思いは、寝ても覚めても忘れたことはないという熱烈なる救世の御心が表されたお言葉があります。

釈迦と別ならず「又玄するす」人は、折角生まれてきたのに、どうして老いさらばえ、病み、そして死んでしまわなければならないのか

この不安から解き放たれようと六年の苦闘の末、菩提樹の下の座禅から、この世の真実に目覚めてみましたら、すべての生きとし生けるものは元来

解き放たれていました。救われていたではありませんか。「この感動からお釈迦様の教えは

始まりました。」との事です。どうぞ皆様におかれましては、本年も一年より佳き年でありますように！

敷島の 大和心を人間わば 合掌

朝日に匂う山桜花

平成27年度 瑞龍寺行事予定

開催日	行事の内容
4月7日 (火)	花祭り法要・法話
5月10日 (日)	梅祭り
8月16日 (日)	お盆法要・瑞龍寺花園会総会
8月23日 (日)	栽松塔法要
9月20日 (日)	秋の彼岸法要
10月下旬	秋季特別布教
11月22. 23日 (日・月)	開山忌・中川老師23回忌 礼拝堂落慶法要
H28. 1月10日 (日)	新年の法要
3月20日 (日)	春の彼岸法要

写真で振り返るこの1年



花祭り法要 (4月7日)



お盆法要 (8月17日)



栽松塔法要 (8月24日)



開山忌法要 (11月23日)

開山忌法要及び記念講演の報告

11月23日 瑞龍寺 本堂

記念講演会

講師 臨濟宗 国泰寺派管長 富山国泰寺住職 澤 大道老師

テーマ「禅について語る」

仏教は縁によって繋がるというお言葉から始められ、「心を開くと結果はついてくる」その心とはすなわち仏である。仏はすなわち心であると導かれ、その後臨濟宗の統一と分派の経緯を話され、ご自身は大谷大学を卒業後に中国の北京大学へ留学(ご本人は遊学と述べられました)された時のお話をされました。

中国生活で気づいたことは、「法」を犯さなければ何でもありとの不道德の許容範囲の大きすぎるのは如何なものかというお話もありました。

瑞龍寺と関わりのある平野老師とも深い繋がりのある大道老師の「禅」に対するお心が垣間見えた素晴らしい講演会でした。

(責任役員 茅根 米久)



秋季特別布教に参加して

11月1日 瑞龍寺 本堂

講師 秋田県開得寺住職 新野 建臣 師

瑞龍寺の皆川老師の兄弟子にあたる新野住職が来寺され、本山妙心寺の今年のテーマ「おかげさま」(今ここに私の命)について、北海道教区第1部の他のお寺の檀家さんと一緒にお話しを聞きました。

お(敬語) かげ(見えないものに対する思い) さま(それに対する尊敬語)の説明から始まり、生活信条を3つお話しされました。

一つ目は、1日一度は静かに座って身と呼吸と心を調えましょう。

お経の仏とは幸せと解せよ。人はこれを忘れて欲望を持つので1日に一度は自分の幸せを考えて

二つ目は、人間の尊さに目覚め他人の生活も大切にしましょう。

三つ目は、生かされている自分に感謝し、報恩の行を積みましょう

という仏教徒として忘れてはいけない思いを聞くよい機会になりました。

坐禅のすすめ

初心者でも気楽に参加できる坐禅会を開催しております。慌ただしい日常を離れ、静かな環境で心を落ち着かせ、自分を見つめ直すきっかけにして下さい。

坐禅は「ゆっくり呼吸することに集中する」ことです。

特に本寺院には、全国的にも誇れる一般者向けの立派な坐禅堂がありますのでご利用下さい。

皆様はもちろん、お知り合いの方にも、下記のような色々な坐禅会・講話会等を開催しておりますので、是非お気軽にご参加下さい。

早朝坐禅会・参禅 毎朝6時～8時
定例会・語録提唱 毎週日曜8時～9時
初心者坐禅会・講話会

午後坐禅会 毎週日曜10時～12時
夜間坐禅会 毎週土曜14時～15時30分
毎週水曜18時30分～20時
仏教講坐輪読会 毎週金曜8時～9時30分

お寺からのお願い

氏名、住所、電話番号が変更になった場合は、必ずお知らせ願います。

永代供養受付

お墓の後継ぎがない。子供はいるが遠方にいるために墓を守ってくれるかどうか将来が心配など、代わりにお寺がご先祖様の御骨をお守り供養しますのをご相談下さい。



【平成27年 回忌表】

一周忌	平成26年
三回忌	平成25年
七回忌	平成21年
十三回忌	平成15年
十七回忌	平成11年
二十三回忌	平成5年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和58年
五十回忌	昭和41年

○ 編集後記 ○

京都大学の総長になった、ゴリラ研究者の山極寿一さんと遺伝子研究をしている生物学者の福岡伸一さんの対談を読んで「そつなのか」と思ったのでした。

霊長類の人間が五百万年前に直立二足歩行を確立させ、二百万年前頃から脳が大きくなったという。ところが脳が大きくなったのだけれど、直立二足歩行が確立し赤ちゃんを産むための産道が狭くなっていったので頭の大きな子供を産むのは難しくなったのだと。そこで、産んでから頭を大きくするしかなかったというのです。人間は生まれて一年で一気に二倍になり、十二歳から十六歳くらいまでかけて脳を完成させるのだそうだ。脳の生長は大変なエネルギーが必要なのでとりあえずほと

新しく責任役員になられた方



西 清延



森 隆明



成田 正治

んどを脳に回して、脳が完成したあと、思春期スタートが起きて女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしくなっていく。そんな理由で幼年期が延びたのだというのです。

また、狭くなった産道を頭の大きな子供を通さなくてはならないので、時間がかかるし、赤ちゃんも頭を絞り込んだ形にしなければ出てこれないので、母子ともに生命の危険がある。だから一人では産めなくなって、誰かに手伝ってもらわなくてはならなくなりました。でもまだ体力のあるうちに、その難産はやめてしまっ、残りの人生は自分の娘や孫の世代のお産の手助けに回って、種の生存を高めて来たのだと。

花園会だより 編集委員